

利島港 前浜地区 離島ターミナル整備事業 (利島村 前浜)

令和2年10月19日(月)

港湾局離島港湾部

目次

1.	事業概要	1
2.	社会経済情勢等の変化	4
3.	事業の投資効果	7
4.	事業の進捗状況	10
5.	事業の進捗の見込み	12
6.	コスト縮減等	13
7.	対応方針（原案）	14

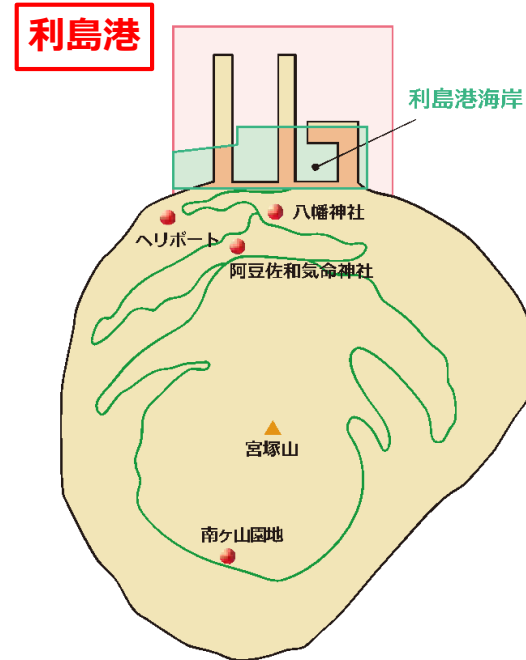
1. 事業概要

(1) 位置図・利島港の概要

- ・伊豆諸島では、1島に2箇所以上の港を整備することが困難な小離島については、1港2突堤により、港内静穏度の確保を行うこととしている。
- ・利島においては、利島港で1港2突堤方式を採用している。
- ・来島者の約8割は船舶を利用しており、利島港は島の玄関口として重要な役割を果たしている。また、利島港は、生活及び産業活動に必要な貨物の大半を取り扱うなど、島の経済を支える重要な役割を果たしている。



【位置図】

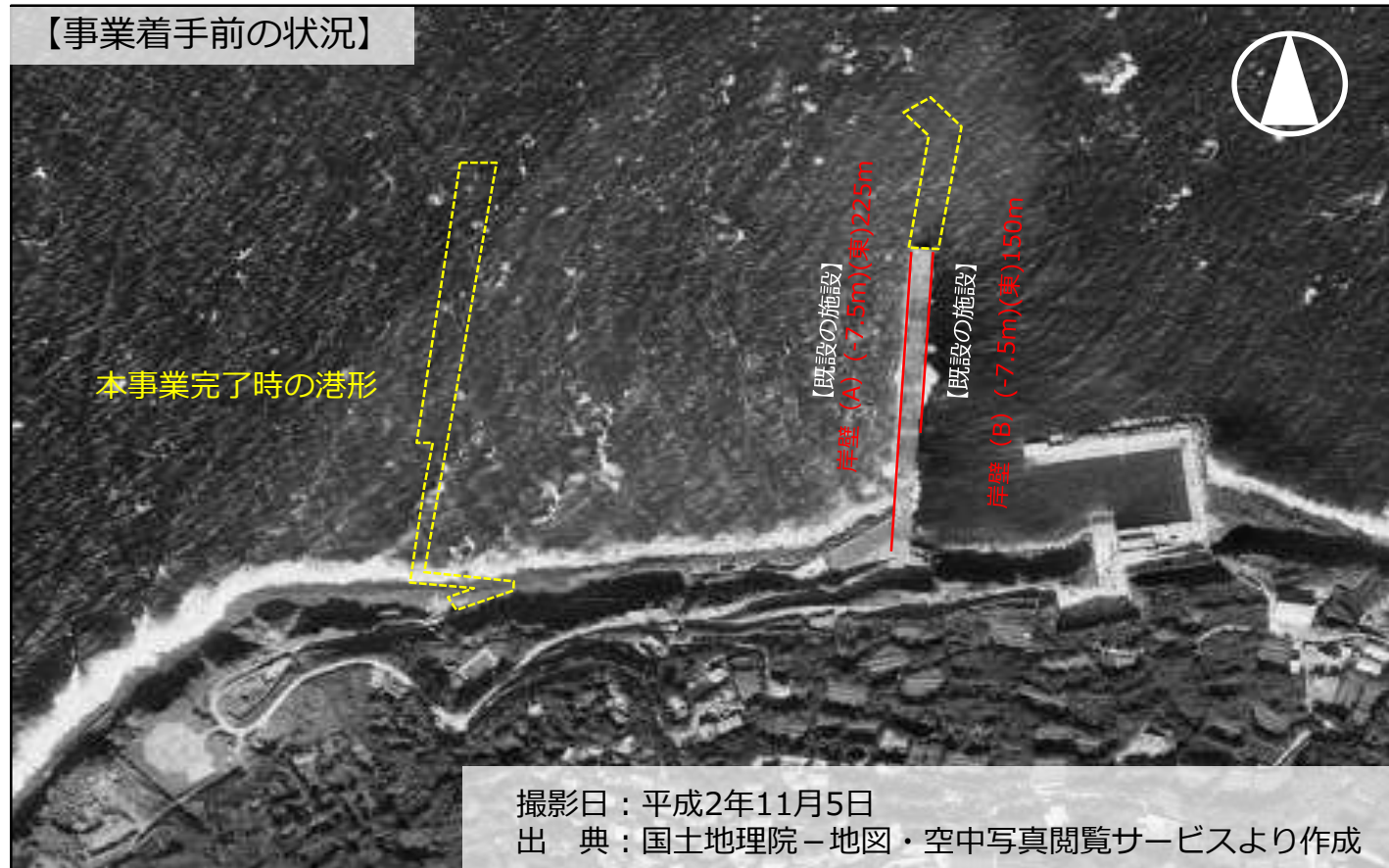


1. 事業概要

(2) 利島港の概要（事業着手前の状況）

- ・岸壁上への越波等により、旅客の乗降や荷役において安全性及び効率性が十分ではない状況が生じている。
- ・船舶が安定して接岸するための十分な静穏度が確保できていない。

【事業着手前の状況】



1. 事業概要

(3) 事業の目的と計画の概要

①事業の目的・必要性

・定期貨客船や高速船の就航率向上、乗降客の安全性向上・荷役作業の効率化を図るため、岸壁、防波堤、護岸(防波)等を整備する必要がある。

②計画の概要

事業箇所：東京都 利島村

整備施設：

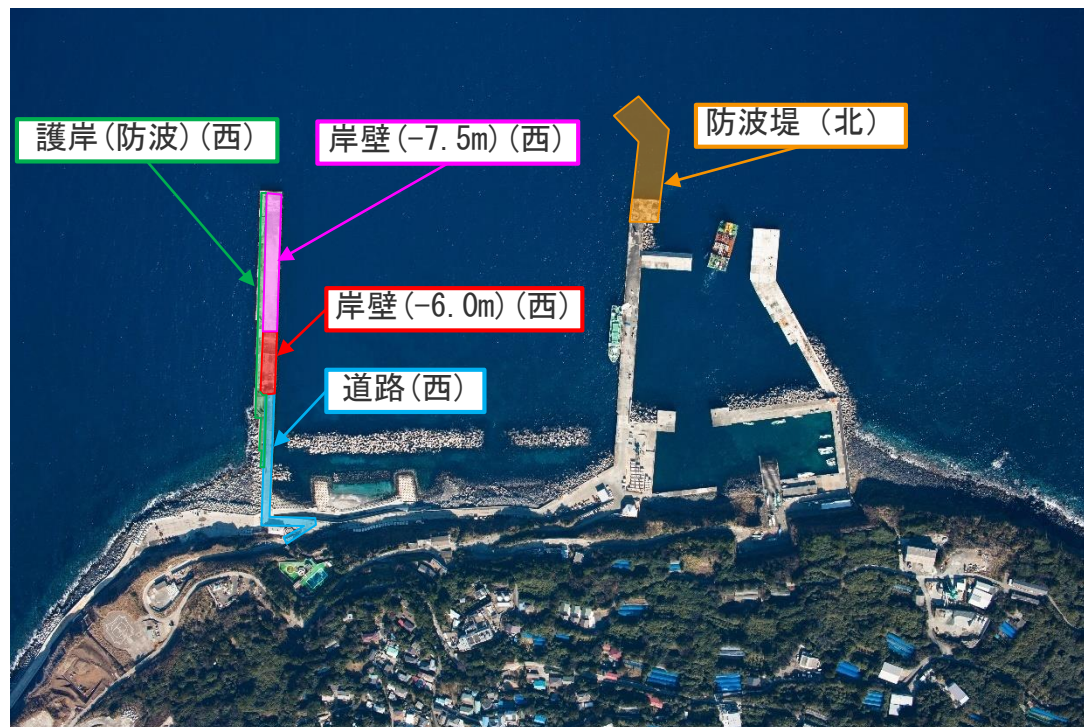
- ・防波堤(北) 105m
- ・護岸(防波)(西) 380m
- ・岸壁(-6.0m)(西) 80m
- ・岸壁(-7.5m)(西) 150m
- ・道路(西) 220m

事業期間：平成3年度～令和10年度

事業費：222億円

③事業の経緯

- 事業採択：平成3年度
- 前回再評価：平成27年度
(再評価実施時から5年経過)

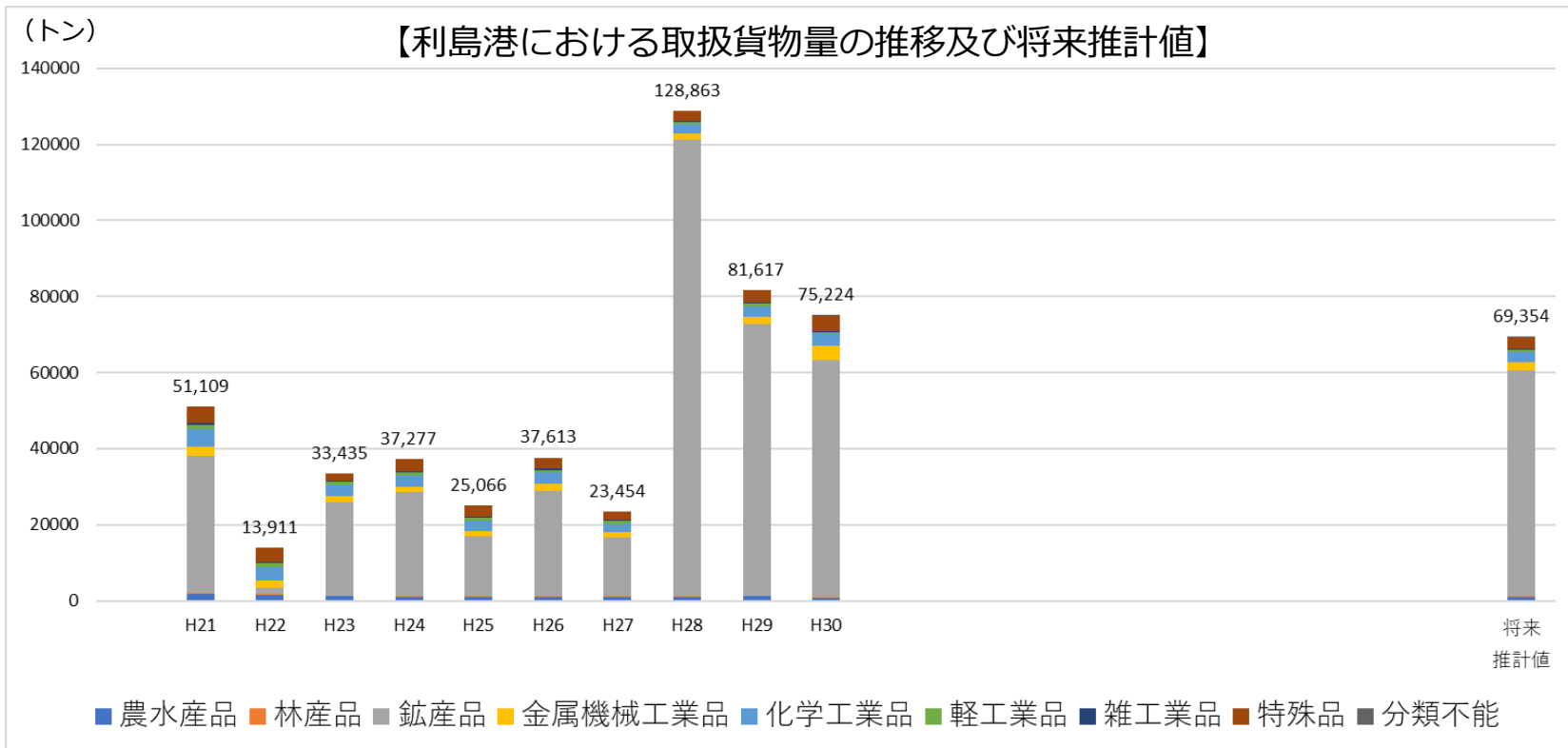


2. 社会経済情勢等の変化

(1) 取扱貨物量における需要の見込み

- ・取扱貨物量は、公共事業等の実施状況に伴う建設関連貨物（主に鉱産品）の増減により各年でばらつきがある。生活関連貨物（農水産品、軽工業品、雑工業品）については概ね横ばい傾向となっている。
- ・島民生活の安定のため、引き続き本土からの物資の調達が必要である。
- ・将来的な港湾取扱貨物量は、現状程度で推移するものと想定される。

直近5カ年（H26～H30）の平均値：69.4千ト（H27再評価時：37.3千ト）



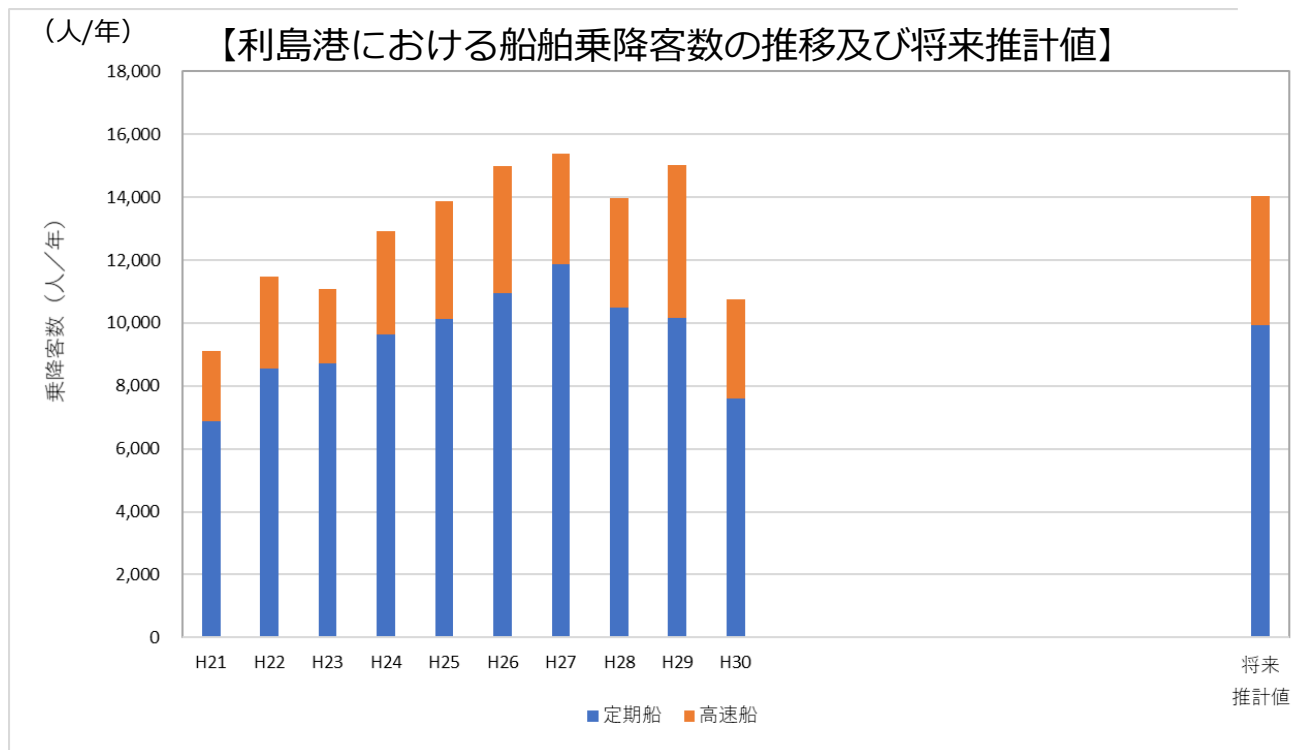
出典：東京港港勢（島しょ港湾を含む）－平成 30 年（2018 年）港湾統計－より作成

2. 社会経済情勢等の変化

(2) 船舶乗降客数における需要の見込み

- ・ 利島港は、島唯一の港であり、引き続き船舶乗降客の需要が見込まれる。
- ・ 利島港における船舶乗降客数は、ドルフィンスイムやダイビング等の観光もあり、平成21～27年までは増加傾向であったが、近年は概ね横ばい傾向となっている。
- ・ 将来的な船舶乗降客数は、現状程度で推移するものと想定される。

直近5カ年（H26～H30）の平均値：14.0千人（H27再評価時：18.8千人）



出典：東京港港勢（島しょ港湾を含む）－平成 30 年（2018 年）港湾統計－より作成

2. 社会経済情勢等の変化

(3) 地元情勢の変化等 (変化なし)

- ・利島港は、利島の玄関口として、旅客の出入りとともに、生活及び産業活動に必要な貨物の大半が取り扱われている。島の経済を支える重要な役割を担っており、情勢の変化はない。

(4) 関連計画の変更 (変化なし)

【東京都離島振興計画（平成25年度～平成34年度）東京都】

- ・就航率の向上を目指し、海況に左右されにくい港湾整備を行っていく。

(5) 周辺施設の整備状況の変化 (変化なし)

- ・集落から港へアクセスする道路は整備済みである。
- ・平成30年10月の台風24号により、岸壁(-6.0m)(西)、岸壁(-7.5m)(西)、護岸(防波)(西)が被災し、現在、災害復旧工事を実施中である。

3. 事業の投資効果

(1) 費用対効果分析

ア) 便益

「港湾整備事業の費用対効果分析マニュアル」及び「港湾投資の評価に関する解説書2011」に基づき、輸送コスト削減便益、移動コスト削減便益、船舶損傷損失削減効果等を計上

イ) 費用

本プロジェクトに係る建設費及び維持管理費を計上

ウ) 分析条件・結果概要

項	目	評価概要
基準年度		令和2年度
事業期間		平成3年度～令和10年度
分析対象期間		供用後50年間
事業費		222.1億円
総費用 (C)		377.2億円
総便益 (B)		443.0億円
費用便益比 (B/C)		1.2 (前回評価時 1.2)

注1) 便益・費用については、社会的割引率を4%として基準年度における価値に換算した値を示す。

3. 事業の投資効果

(2) 評価期間内便益・費用

項目	内 訳	評価結果
便 益	・貨物の輸送コスト削減効果	50.0 億円
	・旅客の移動コスト削減効果	78.7 億円
	・船舶損傷損失額削減効果	314.3 億円
	総 便 益	443.0 億円
費 用	・建設費	374.4 億円
	・維持管理費	2.7 億円
	総 費 用	377.2 億円
費用便益比 (B / C)		1.2 (前回評価時1.2)

3. 事業の投資効果

(3) 貨幣換算が困難な効果

【離島定期航路の信頼性の向上】

- ・ 定期貨客船の就航率が向上することで、生活物資の入荷が確実となり、安定した島民生活が確保される。
- ・ 定期貨客船の就航率が向上することで、農水産物・特産品など貨物輸送の信頼性が高まり、産業振興に寄与する。
- ・ 定期貨客船の就航率が向上することで、観光客の移動の確実性が高まり、イメージアップにつながることで観光客が増加する。

【乗降客や港内作業の安全性向上】

- ・ 接岸時の揺動や越波が減少し、旅客の乗降や荷役作業の安全性が高まる。

4. 事業の進捗状況

(1) 事業の進捗状況

○進捗状況

- ・防波堤（北） 105m : 50m整備済
- ・護岸（防波）（西） 380m : 完了
- ・岸壁（-6.0m）（西） 80m : 完了
- ・岸壁（-7.5m）（西） 150m : 完了
- ・道路（西） 220m : 完了

○進捗率

	用地費	工事費	合計
全体事業費	—	222億円	222億円
執行済額	—	157億円	157億円
進捗率	—	70.5%	70.5%

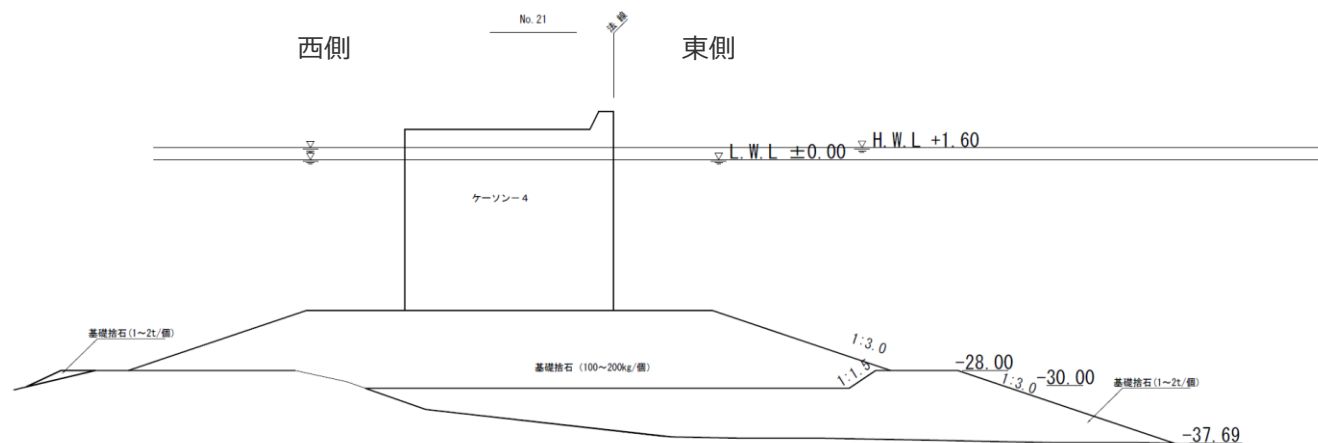
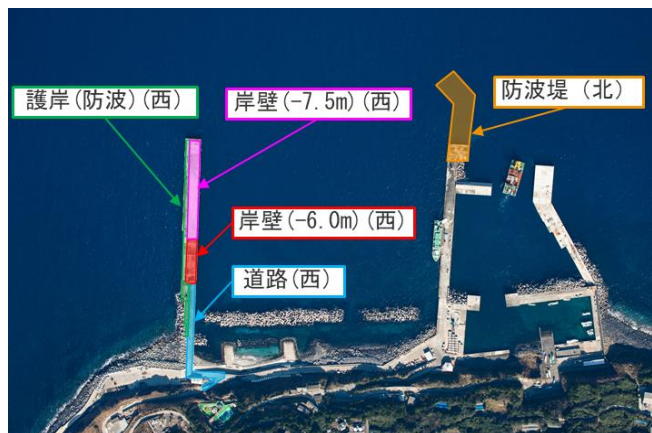
(2) 事業費変動の要因

- ・事業費は前回評価時より53.0億円増加。
- ・実施の段階で、整備位置の水深から当初の想定より基礎マウンドを大きくする必要があることが判明したこと等による。

4. 事業の進捗状況

(3) 前回評価以降の主な整備状況及び残事業の概要

- ・ 前回評価（平成27年度）以降、防波堤(北)の延長25mを整備している。
- ・ 本プロジェクトにおける残事業は、防波堤(北)の延長55mとなっている。

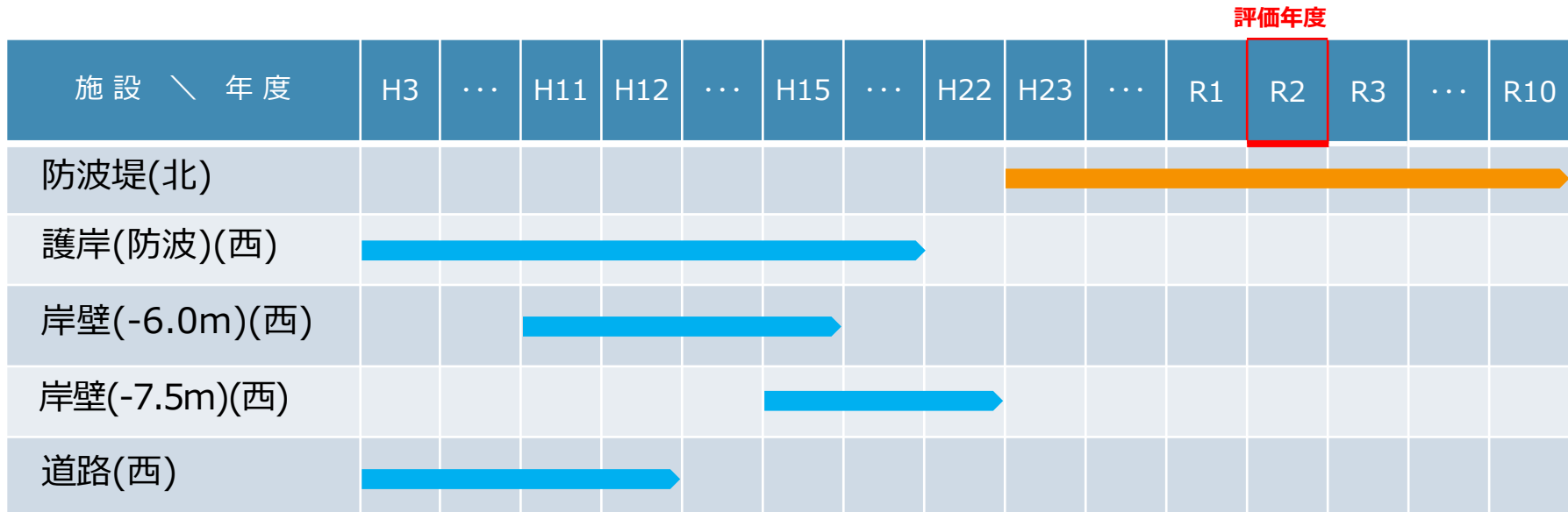


防波堤 (北) 断面図

5. 事業の進捗の見込み

(1) 一定期間を要した背景等（事業期間見直しの要因）

- ・伊豆諸島は、気象・海象条件が厳しく、水深が大きいいため、大規模な構造物が必要となる。また、海上工事は、季節風や台風による波浪等の影響を受けやすい。このため事業の完了までには、長期間を要することが見込まれる。
- ・これまでの工事の進捗実績等を踏まえて事業期間を見直し、事業完了は令和10年度完了となる見込み。



6. コスト縮減等

(1) 新工法の採用など

- ・ 島しょ地域の港湾等の工事においては、厳しい気象・海象条件や大水深といった悪条件下での施工環境にあるため、ICTを活用した効率化・省人化の推進について検討する。

(2) 事業手法、施設規模等の見直しの可能性

- ・ 防波堤や岸壁等の整備によって就航率の向上や旅客の乗降と荷役の安全性、効率性の向上を図る本事業は、施設規模、位置など十分に検討されたものであり、代替案は考えられない。

(3) コスト縮減の取組み

- ・ ケーソン構造を採用し、ケーソン製作を東京港で行って、気象・海象条件の厳しい離島での作業を据付のみとすることで、作業の効率化を高めるとともに、新技術を採用すること等により、コスト縮減を図っていく。

7. 対応方針（原案）

（1）事業の必要性等に関する視点

- ・本事業は、島民生活や産業活動に欠かせない、定期船等の就航率の向上や旅客の乗降と荷役の安全性、効率性の向上を図るため、継続して着実に進める必要がある。
- ・中止の場合は、十分な事業効果を発現できないだけでなく、これまでの投資に見合った効果も得られなくなる。

（2）事業の進捗の見込みの視点

- ・平成3年度に事業着手し、令和2年度末の時点で70%（事業費ベース）の進捗状況であり、事業期間の見直しにより令和10年度に完了予定となっている。

（3）コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

- ・今後も新技術の採用等によりコストの縮減を図っていく。また、就航率の向上、旅客の安全確保及び効率的な荷役作業を確保するために必要な施設規模で計画しており、代替案は考えられない。

（4）対応方針（原案）

- ・以上より、本事業は『**継続**』が妥当であると考えます。
- ・事業の必要性・重要性は高く、着実な効果発現を図ることが適切である。